Obituary of the Late Dr. Minoru ISHIYAMA

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Satomi, Nobuo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00056302

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

individuals (Q-1, No. 92 ; Q-2, No. 28, 50 -cf. Table 1) had one B-chromosome of f_D2 type (for details, see HOSHIYA, 1982).

The rather heavy predation of young flower buds and bulbils by moth larvae (*Acrolepia manganeutis* MEYRICK : Yponomeutidae) was also observed.

The role and efficiency of vivipary as a means of vegetative reproduction in plants, especially in the genus *Allium*, and problems related to its adaptive significance were discussed.

(Received Sept. 18, 1982)

小林純子：竹内　亮先生の御逝去を悼む
Sumiko KOBAYASHI : Obituary of the Late Dr. Makoto TAKENOUCHI

竹内亮先生が11月1日に亡くなられた。享年88才。御病弱な奥様をいつも庇っておられたのに先に逝かれるとは御自身でも思いも及ばなかったことと思う。私の先生との出会いは牧野標本館が先生に館所蔵の牧野富太郎氏採集のスミレの同定をお願いした時に遡る。その前から私は先生の書かれた〝九州のスミレ〟や〝コウライタデスミレ〟の愛読者だったし丁度その頃〝シレトコスミレ〟の面白さに取付かれて調査の準備を進めていたので何かとスミレを挾んでお話することが多かった。その御縁で共著〝シレトコスミレに関する研究・タカネスミレとの比較〟が生れ，次々発展してタカネスミレやキバナノコマノツメの関係を探る為に木曽駒や会津駒，女岳に御一緒したり，カムチャッカ半島の *Viola avatschensis* との関係を比較する論文を纒めたりした。これらの過程で先生は常に植物の生きた姿を摑まえる事の大切さを教えて下さり，その為には，花や実だけでなく，とかく見過され勝な地下部—根系の十分な観察と，環境要因の科学的な分析の重要性を説かれた。その成果の一部は後に共著の〝新潟県瀬波海岸のセナミスミレについての生態観察〟として〝北陸の植物〟に掲載された。5月の連休に瀬波海岸を訪れて，青い波を背景に，大きくて輝くばかりのセナミスミレの花の美しさにもまして，強い海風に根本の砂を吹き拂われても拂われても，地中深く伸びつづけて生き抜く地下部の激しさに打たれた思出は今も生々しい。先生の牧野館への寄与はスミレの同定のみでなく，多数の御自身の採集品の寄贈も加えなければならない。その中には W. BECKER から直接送られた数々の貴重なヨーロッパのスミレの他，御自身の各地のスミレ及びその他の採集品が含まれており，特に入手し難い満洲産の植物もあって，これ等は今標本館に所蔵されて多くの研究者の資料として役立っている。スミレ愛好者以外には先生と馴染の少い方も多いと思うが，先生は最後まで在野の Naturalist であり，日本よりはむしろ中国に多くの弟子を持つ植物学者であった。福井県鯖江市出身。山が好きで北大農学部林学科で学ばれ，御卒業後九大農学部植物学教室に務められたが昭和の初に満洲に渡られ，林野局に報職，戦後も中国に留まり，長春の東北師範大学教授として多数の中国人学生を指導された。昭和32年帰国後は東北パルプ(後に十條製紙)の嘱託として野外調査されるかたわら田無市に住み，御自宅の庭を市の自然公園として開放され，市の公害監視員や〝草木に親しむ会〟で自然観察指導もされていた。又絵を描く事がお好きで毎月5月には山や草木を題材とした個展を開かれたと聞く。牧野標本の同定が終ってからは先生とお会いするチャンスもなくなったが先生の残された標本は今でも私の側で生きており，先生のお教えはいつまでも私の心に花咲いている。只一つ，先生に図を書いていただいてもう一度スミレの共著を纒めようとお約束していたのに果せなかった悔を一人かみしめながら，心から御冥福をお祈り申し上げます。

里見信生：石山　実氏の御逝去を悼む
Nobuo SATOMI : Obituary of the Late Mr. Minoru ISHIYAMA

故石山　実氏は昭和56年8月22日，78才で御永眠なさいました。故人は本会会員として最長老，と申しますのは第1巻第1号より御愛読下さいました数少い会員の御一人でございます。御本務の御僧職の傍ら，こよなく植物を愛されました。

御生前，親しく御交際なさいました，清水嶺波氏よりうけたまわりますと，旧制の金沢二中に御在学中より高山植物に興味を持たれ，青年時代には白山は申すまでもなく，中央アルプスまで遠征されて縦走されるなど，大変な御努力の結果，その御智識の深く，しかも広いことには常々敬服されていたとのことです。私は同じ金沢に住みながら，御生前に御目にかかる機会がなく，故人から植物は勿論，その他多くの御話を御聞きできませんでした。かえすがえす残念なことで，幽明相隔てた今になって，後悔するばかりでございます。謹しんで御冥福を御祈り申上げます。